

## 中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックスへご協力いただける飲食店を募集

いちはらアート×ミックス実行委員会では、公式ガイドブックやパスポート等の作成を進めています。これらの媒体に、市内の飲食店の情報を掲載することで、来場者の利便性の向上を図るだけでなく、市原市の食をPRできるものと考えています。

また、いちはらアート×ミックスでは、会期中に約20万人の来場者を見込んでいます。これらの来場者の多くが御協力店舗を利用できるよう情報発信をすることで、店舗様にとって大きな宣伝効果となります。

つきましては、下記のとおり情報提供いただける店舗を募集しますので、ご協力をお願いいたします。

### 【募集対象】

市原市内の飲食店

### 【情報提供してほしい内容】

① 店舗の基本情報（所在地、営業時間、連絡先、PR内容等）

② 鑑賞パスポートを持参した人への割引サービス等

※②は協力いただける場合のみ

### 【申込方法・期限】

別紙「ガイドブック等掲載申込書」に必要事項を記入のうえ、平成25年12月27日（金）までに、FAXまたはEメールにて回答してください。

申込書は、いちはらアート×ミックス公式HPからダウンロードできます<<http://ichihara-artmix.jp>>

### 【情報発信する媒体】

いちはらアート×ミックス公式ガイドブック、鑑賞パスポート、及び公式ウェブサイトなどへの掲載

※鑑賞パスポートの掲載は、割引サービス等を実施する店舗のみ掲載します。

※ガイドブック発行部数：2万部程度

### 【注意事項】

掲載店舗の選定は、ガイドブックの発行元となる出版社が行うため、すべての店舗が掲載されるとは限りません。また、掲載結果について、申込みいただいた店舗様に通知等はありませんので、ご了承ください。

### 【提出先・問合せ先】

いちはらアート×ミックス 食と農部会事務局

（市原市経済部商工業振興課）

電話：0436-23-9870 FAX：0436-22-6980

Eメール：shoukougyou@city.ichihara.chiba.jp

### 【中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス 開催概要】

会期：2014年3月21日[金・祝]－5月11日[日]

会場：市原市南部エリア（小湊鐵道上総牛久駅－養老溪谷駅一帯） 連携会場：中房総エリア

主催：中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス実行委員会

後援：国土交通省、経済産業省、文化庁、観光庁、千葉県

実行委員会会長：佐久間隆義（市原市長） 総合ディレクター：北川フラム（アートディレクター）

公式ウェブサイト：<http://ichihara-artmix.jp>

公式フェイスブック：<http://www.facebook.com/artmix2014>

問合せ先：中房総国際芸術祭いちはらアート×ミックス実行委員会（市原市経済部国際芸術祭推進室）

〒290-0225 千葉県市原市牛久 1238

電話：0436-50-1160 FAX：0436-50-1303 e-mail：kokupei@city.ichihara.chiba.jp

裏面もご覧ください

## 市原市 日本の縮図

千葉県市原市は今年、市制施行50周年を迎えました。

市原市は房総半島の中央に位置し、都心から約1時間程度。北部臨海エリアには工業地帯、南部には緑豊かな里山が広がり、自然と豊かな食材に恵まれた地域です。

1957年から始まった市原海岸部の埋め立てと共に各企業の工場建設や操業が進み、かつての豊かな農村・漁村から工業と住宅都市へと発展してきました。

日本の高度経済成長に合わせ市原市でも臨海部の工業地帯や首都圏で働く人々のベッドタウンとして数多くの郊外住宅地が広がり、人口増加が進んだ一方、近年南部エリア（以下南市原）では少子高齢化が進んでいます。このように、日本の縮図と例えられる市原市では現在、特に南市原において、少子高齢化の進行による過疎対策と地域活性化計画が必要不可欠となっています。



## 廃校の活用

2013年春、市原市に小中一貫教育校「加茂学園」が誕生し、これに伴い南市原では4つの小学校が閉校しました。地域コミュニティにおける大切なプラットフォームの役割を担ってきた学校。2014年の「いちはらアート×ミックス」では、廃校を活用したアートプロジェクトにより新たなプラットフォームを創出し、学校を拠点とする文化的活動を通じたまちづくりを始めます。

## 小湊鐵道の活用

市原市のシンボル「小湊鐵道」。市のほぼ中央を走る背骨のような路線です。ただ乗るだけでもノスタルジックな旅情が味わえる鉄道ですが、「いちはらアート×ミックス」では小湊鐵道の駅舎や車両を最大限に活用し、他では決して味わうことのできない“体験”を考えます。2014年は車両や駅を使ったイベントを中心に、3年後の2017年に向けては今回活用する学校と共に、駅はその名の通りプラットフォームとして地域に根付きます。

## Around 40世代アーティスト

「いちはらアート×ミックス」の中核を担うのは、40歳前後のアーティストです。彼らが、一時的でなく継続して市原に関わり、ものづくりにとどまらないソフトづくりを、地域の方々を巻き込みながら進めていきます。そのプログラム1つ1つが、地域の重要な活動となっていくことを目指し、長期的に丁寧に実施します。

## 豊かな自然と食

養老溪谷を始め、南市原には山や川などの里山の風景と、そこでの暮らしが今も数多く残っています。また温暖な気候の下、野菜や果物、米や麦などの穀物、乳製品まで様々な食材が豊富にあります。「いちはらアート×ミックス」では、都会で体験できない自然とのふれあいや農作業を体験し、市原へ通いたいと思えるプログラムを用意します。さらに身近にある自然や食材、製品を活用し、新たな名品、名所をアーティストが地域住民と産み出していくことも、地域活性化に向けた取り組みの1つとします。



晴れたら市原、行こう